



IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI



今回の2学期の人権・同和教育の特別授業は、本校文化委員会との共同企画で、9月27日に、江津市総合市民センターを会場として演劇鑑賞を実施することになりました。教室での授業や学年集会での講話などとは違って、舞台の迫真の演技を通じて直接心に響いてくる感動を味わってほしかったからです。今回の演目は、劇団新制作座による「泥かぶら」です。この作品は、戦後の混乱した時代に一条の光を投げかけた名作として昭和27年10月、愛知県一宮市で初日の幕をあけました。身寄りがなく、貧しく、醜いために村人から「泥かぶら」と蔑み、いじめられている少女の話です。少女は自分の醜さを嘆き、美しくなれたらと願うのですが、ある日出会った老人から、美しくなるための3つの秘訣を教わって健気に必死に努力します。もちろん親から受けついで容貌が変化することはないのですが、笑顔を絶やさず、人のために親身に手助けをしていくうちに、周囲から頼りにされ、感謝されるようになっていく中で、自己肯定感が育っていき、明るく健康的で、心根の優しく美しい素晴らしい人に成長して行くのです。もはや美しくなりたいというかつての願いなんかどうでもよくなり、人の役に立つ喜びで満たされ充実した毎日を送るようになるのです。



3つの教えは、実はノートルダム清心学園理事長であった渡辺和子さんの言葉がもとになっています。渡辺さんは、「神様は私たちの“願ったもの”よりも、幸せを増すのに“必要なもの”を与えてくださいます。それは必ずしも自分が欲しくないものかもしれません。しかしすべて必要なものなのだ、感謝して謙虚に受け入れることが大切です。(自分が)置かれた場所で咲きなさい。」と大切なメッセージを遣されました。

また書家の相田みつおも「うつくしいものを美しいと思えるあなたのこころがうつくしい」と、人間の美しさは内面からにじみ出る精神性のことだと説いています。私たちは普段から自分の思い通りにならないことについて、不平や不満をつい口にしがちですが、人をうらやましながら、人に感謝し、ありのままの自分を認めつつ充実した毎日を送るよう頑張りたいものです。



## 研修から学んだこと・感想・・・

### 子役で出演した土井さん(智翠館特別コース2年)の感想

私は「泥かぶら」を見て、他人の本当の良さを見つけられる人になりたいと思いました。泥かぶらから学んだ3つの事・・・

「自分の顔を恥じないこと」「いつもニコリ笑顔」「相手の立場になって考えること」  
これは、当たり前にはできないことだと思います。劇団の方々、泥かぶらのように、その3つのことをしていました。泥かぶらを演じることに、とても誇りを持っておられて、劇ですが劇団の方々の姿にもとても感動しました。劇では、泥かぶらがどれだけいじめられても、3つのことを守ろうとする姿がとても印象に残っています。自分だけつらい思いをしても、相手のことを思って我慢する。それがだんだん人のためになることが喜びになっていくところが素敵だなと思いました。泥かぶらはきれいになるために、がんばって、本当に見た目もきれいになりましたが、見た目よりも“心が”きれいになっていったと思います。その心のきれいさは周りの人の心もきれいにしていったので、“思いやり”というのはつながっていくんだなと思いました。泥かぶらのように、3つのことを完璧に守れるようになるのは直ぐには難しいかもしれませんが、少しずつ出来るような人になりたいです。

